

パーパス・ビジョン・三つの誓い

存在意義

パーパス 一人ひとりの思いを、 もっと実現できる地域社会にする

Why

千葉銀行グループは、お客さま・株主・職員をはじめとするあらゆるステークホルダーと思いをともにし、地域社会の一人ひとり・一社一社に寄り添った存在であり続け、地域社会を「ステークホルダーの思いが叶う場所」にしていくため、パーパス（存在意義）を「一人ひとりの思いを、もっと実現できる地域社会にする」と定めています。

目指す姿

ビジョン 地域に寄り添う エンゲージメントバンクグループ

Where

パーパス実現のために、千葉銀行グループはビジョン（目指す姿）を「地域に寄り添うエンゲージメントバンクグループ」と定め、お客さま・株主・職員などステークホルダーとの深いつながりを背景とした価値提供を通じて、長期的な関係を構築し、地域とともに成長し続ける銀行グループを目指します。

行動原則

三つの誓い

お客さまへの提案や、業務上の判断を行う場合、必ず立ち止まってこの提案や判断は…

How
お客さまの思いの実現
お客さまの課題の解決
お客さまの豊かなライフスタイルの実現
につながるのかを考えます。

千葉銀行グループは、役職員一人ひとりがパーパス・ビジョンに基づいた行動を日々実践していくため、「三つの誓い」を定めています。この行動原則は、パーパス・ビジョンと役職員の行動を結びつけ、組織全体を支える拠り所となるものです。共感を軸に、役職員自らが主体的に行動できる組織文化を醸成するために、私たちは今後もパーパス・ビジョンの浸透に向けた取組みを継続していきます。そして、役職員一人ひとりが「三つの誓い」を体現することを通じて、お客さま一人ひとり・一社一社、そして地域社会全体に対して「最高の価値」を提供し続けていきます。



Contents

イントロダクション

パーパス・ビジョン・三つの誓い1
目次.....3
千葉銀行グループのあゆみ5
地域のポテンシャル7
千葉銀行グループのいま9

千葉銀行の目指す価値

グループCEOメッセージ 11



グループCSOメッセージ 19



企業価値向上に向けて 23
千葉興業銀行との経営統合 27
社外取締役役座談会 29



千葉銀行の価値創造

グループCSuOメッセージ 35



価値創造ストーリー 37
マテリアリティ..... 39
新中期経営計画..... 41
グループCDTOメッセージ 47



DX・AI 49
キャッシュレス・地域エコシステム 53
GX 55
WX 57
ステークホルダーとのエンゲージメント ... 59

価値創造に向けた成長戦略

グループCBOメッセージ 61



エリア別戦略 63
個人戦略..... 65
法人戦略..... 67

アライアンス 69
新事業戦略..... 73
グループCHROメッセージ..... 75



人的資本..... 77
ダイバーシティ 82
グループ・ガバナンス 83

地域・社会・環境への貢献

地域社会への貢献..... 85
人権尊重への取組み..... 89
気候変動・自然資本保全への対応
(TCFD・TNFD提言に基づく開示) 91

価値創造を支える経営基盤

役員一覧..... 97
コーポレート・ガバナンス体制 101
行政処分を踏まえた業務改善・
再発防止に向けた取組み 107

グループCROメッセージ 109



グループCIOメッセージ 110



リスク管理 111
コンプライアンス 115
「お客さま本位」の業務運営 117
財務ハイライト・非財務ハイライト 119
10年間の財務データ 121
連結財務諸表（要約版） 123
単体財務諸表（要約版） 124
グループ会社一覧 125
組織体制図・企業データ 126

編集方針

本書は、千葉銀行グループのパーパス「一人ひとりの思いを、もっと実現できる地域社会にする」を実現するための考え方や具体的な取組みを、ステークホルダーの皆さまにわかりやすくお伝えすることを目的として作成しました。財務情報に加え、事業戦略や価値創造に関する取組み、サステナビリティ等の非財務情報についても統合的に取りまとめています。なお、編集にあたっては、IFRS財団（IIRC）が提唱する「国際統合報告フレームワーク」等を参照しています。

また、本書に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本書の発表日現在における将来の見通し・予測を含んでおり、当行としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、諸条件の変更により、大きく異なる結果となる可能性があります。

報告対象期間 2025年4月～2026年3月（一部、2026年4月以降の情報を含みます）

千葉銀行グループのあゆみ

千葉銀行グループは、地域金融機関として、お客さまのさまざまなニーズにお応えし、事業規模は拡大しています。今後も、地域とともに成長を続けていきます。

■ 貸出金残高
■ 預金残高

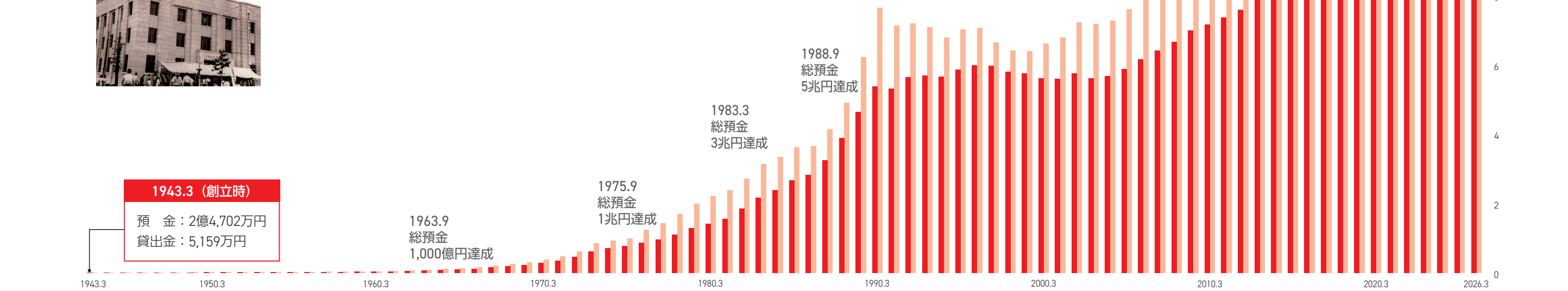
▼ 初代本店



▼ 二代目本店



▼ ちばぎん本店ビル2020年9月竣工



千葉銀行グループの変遷

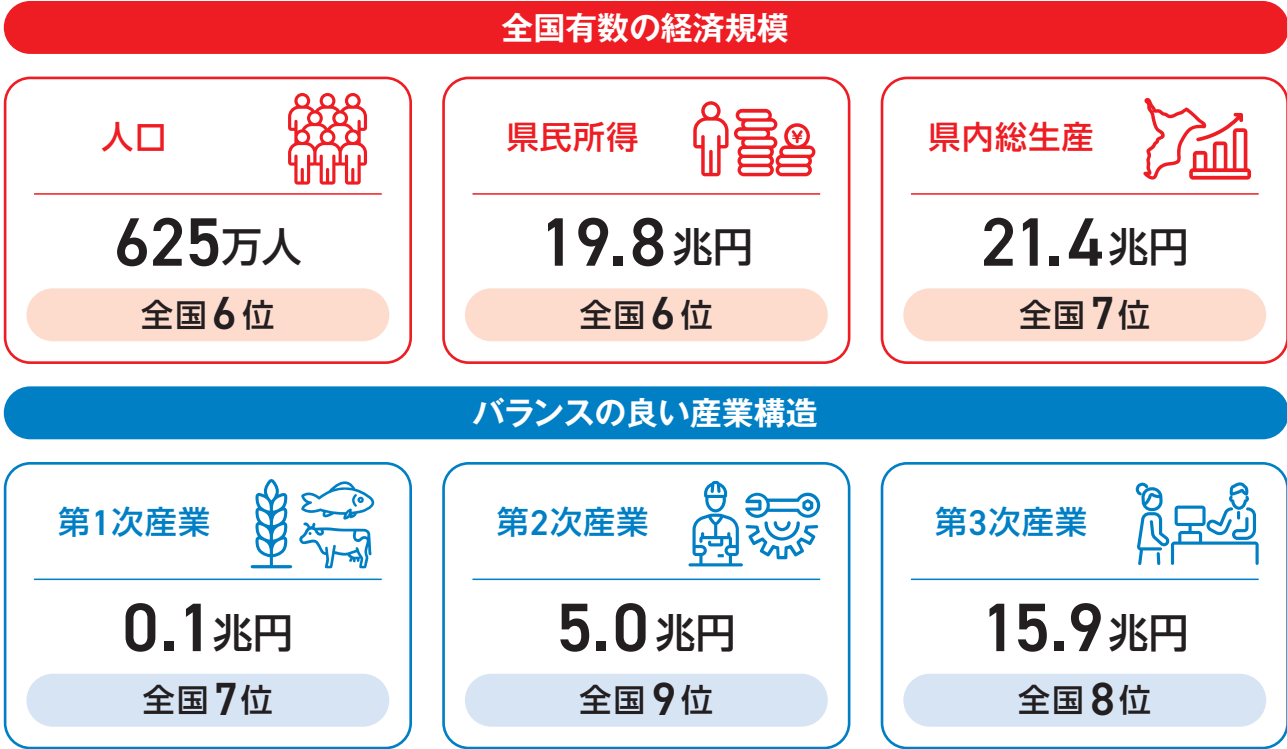
創立～		1960年代～	1980年代～	2000年代～	2020年代～	2027年4月～
1943.3 千葉合同銀行、 小見川農商銀行、 第九十八銀行の3行合併 により千葉銀行設立		1960～ 1964.4 千葉県と指定金融機関事務取扱契 約締結 1970.10 東証第二部（当時）に上場 1971.8 東証第一部（当時）に指定替え 1971.10 第1次オンラインシステム稼働 1973.3 本店を千葉市中央から同市千葉港 へ新築・移転 1973.10 千葉駅前支店にCD1号機導入 「ちばぎんキャッシュカード」発行	1986.10 邦銀初の女性支店長誕生 1987.4 初の海外支店となる ニューヨーク支店開設 1990.2 ちばぎん総合研究所設立 1991.10 おゆみ野センター開設 1995.3 第1回「ちばぎんカップ」 （リーグプレシーズンマッチ）開催 1998.3 中央証券（現ちばぎん証券）を グループ会社化	2014.1 室町ちばぎん 三井ビルディング竣工 2015.10 TSUBASAアライアンス発足 2016.3 オリジナルキャラクター 「ひまりん」登場 2016.3 千葉・武蔵野アライアンス発足 2019.7 千葉・横浜パートナーシップ発足	2020.9 ちばぎん本店ビル竣工 2021.5 ちばぎん商店設立 2023.4 ひまわりグリーンエナジー設立 2023.11 TSUBASA-AMLセンター設立 2024.10 エッジテクノロジーをグループ会社化 2025.3 フレッシュファームちばをグループ会社化 2025.9 千葉興業銀行との 経営統合に関する合意 2026.3 千葉興業銀行との間で共同持株会社 設立に関する最終契約締結	ちばぎん ちば興銀 ちばフィナンシャルグループ 設立予定
社会のできごと 1941～1945 太平洋戦争 1949 1ドル360円の レート設定		1964 東京オリンピック開催 1973 第1次オイルショック 1978 新東京国際空港（成田空港）開港	1985 プラザ合意 1989 消費税導入 1991 バブル崩壊 1997 東京湾横断道路（アクアライン）開通	2002 千葉県人口が600万人突破 2005 パイオフ完全実施 2008 リーマンショック 2011 東日本大震災 2013 日銀「量的・質的金融緩和政策」導入 2019 消費税10%に引き上げ	2020 新型コロナウイルスの感染拡大 2021 東京2020オリンピック・パラリンピック開催 2024 日銀「マイナス金利政策」解除決定	

地域のポテンシャル

当行グループのマザーマーケットである千葉県は、全国有数の人口規模と経済規模を誇り、豊かな自然とバランスのとれた産業構造を有しています。さらに、成田国際空港では拡張事業が進められており、2025年7月には千葉県全域が東京圏国家戦略特区に指定されるなど、新たな成長機会が広がっています。東京都心へのアクセスが良好で、人・モノ・情報が集積する首都圏の成長を取り込みやすい市場環境は、当行グループにとって中長期的な成長を支える大きな強みです。



千葉県の特色



出所：総務省統計局「令和7年国勢調査 人口速報集計結果」、内閣府経済社会総合研究所「県民経済計算」（2022年度）

成田国際空港「第2の開港」プロジェクト — 首都圏・日本の成長を牽引する国際航空・物流ハブへ —

成田国際空港では「第2の開港」を掲げ、滑走路の増設・延伸や運用時間の拡大、旅客ターミナルの再構築、新貨物地区の整備などを柱とする大規模な機能強化が進められています。

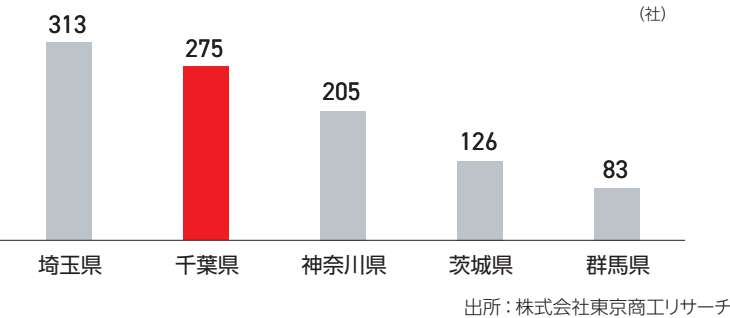


出所：成田空港「第2の開港」を起点とするアクションパッケージ

千葉県への企業本社移転状況

2025年度の転入超過数は全国2位

東京都からの移転企業の受け皿となり、幅広い業種で移転超過となりました。



千葉銀行グループのいま

お客さま基盤

80年を超える歴史で構築した強固なお客さま基盤に支えられ、預貸金は共に地銀トップクラスの水準を誇ります。また、マザーマーケットである千葉県内でのシェアは年々拡大しており、トップシェアを維持しています。

貸出金(単体)※1

14兆1,477億円

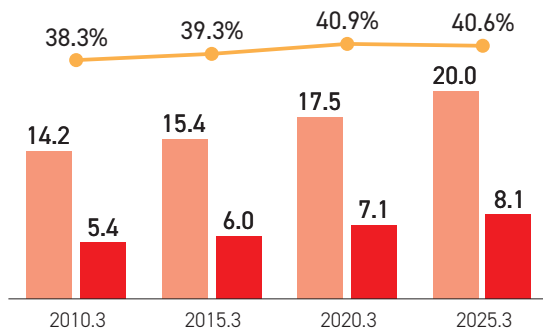
預金(単体)※1

16兆8,514億円

※1 2026年3月末現在

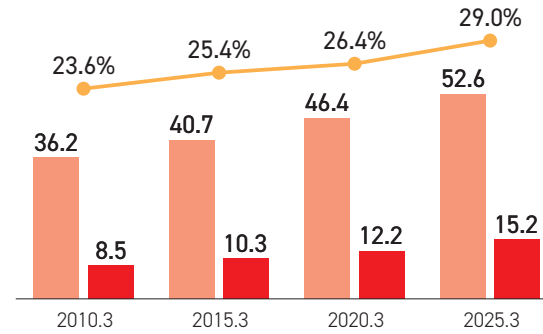
○ 千葉県内貸出金

● 千葉銀行シェア ● 千葉県内銀行貸出総額(兆円) ■ うち千葉銀行(兆円)



○ 千葉県内預金※2

● 千葉銀行シェア ● 千葉県内預金総額(兆円) ■ うち千葉銀行(兆円)



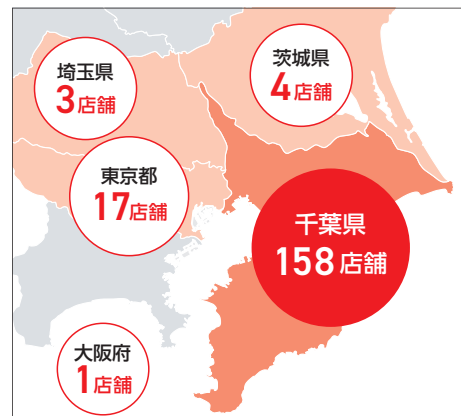
※2 譲渡性預金を含む
出所：金融ジャーナル

店舗ネットワーク

国内では、千葉県を中心として、隣接する東京23区内に加え、茨城県、埼玉県にも出店し、186拠点を有しており、お客さまとの接点を確保しながら、それぞれの地域のお客さまのニーズに合わせた最適な店舗サービスを提供しています。海外では、ニューヨーク、香港、ロンドン、シンガポールに支店を展開しているほか、上海、バンコクに駐在員事務所を構え、地銀としてはトップレベルの海外拠点網を有しています。

国内：183 店舗／3 両替出張所

海外拠点：4 支店／2 駐在員事務所



※2026年3月末現在

財務基盤

地方銀行の中でもトップクラスの収益性と資産規模を誇っており、安定したROEと低いOHRは当行の効率的な事業運営を表しています。また、自己資本比率は15.02%、不良債権比率は0.84%と1%を下回るなど、財務面でも高い健全性を維持しています。

地銀トップクラスの収益力

親会社株主に帰属する
当期純利益(連結) **940億円**

低い経費率

OHR(連結) **41.50%**

ROE
(連結・株主資本ベース) **8.93%**

盤石な自己資本

総自己資本比率(連結) **15.02%**

健全な貸出資産

不良債権比率
(単体・金融再生法ベース) **0.84%**

普通株式等Tier1比率(連結) **15.02%**

※2025年度実績

アライアンス

当行は、TSUBASAアライアンス、千葉・武蔵野アライアンス、千葉・横浜パートナーシップの3つのアライアンスを中心に深化を進めており、ソニー銀行とはDXによる金融サービスの向上に向けてさまざまな連携を行っています。他行に先駆けた先進的なアライアンス戦略は、最大の差別化戦略であり、当行のプレゼンスを高めています。



2015年～



2016年～



2019年～



2022年～